

2011年3月26日(土)  
~6月19日(日)

# 柏原ぶどう物語

## 記念イベント

4月16日(土) 13:00~

「柏原のワイン、ここだけの話、ここだけの味」

講師 高井利洋氏 (カタシモワインフード(株)社長)

ワインのお話しと試飲会、学芸員による展示解説など  
歴史資料館研修室にて、参加費無料、申し込み不要

## 史跡高井田横穴特別公開

5月21日(土) 10:00~15:00

線刻壁画も見る事ができます!

史跡高井田横穴公園にて、申し込み不要

## 柏原市立歴史資料館

開館時間 9時30分~16時30分

休館日 月曜日

入館料 無料

大阪府柏原市高井田1598-1 電話 072-976-3430

初堂書



葡萄栽培画絵 (中野清氏蔵)

# 柏原ぶどう物語

柏原市の特産品として、市民のだれもが一番にあげるのが「ぶどう」でしょう。身近なくだものとして親しまれているぶどうですが、その栽培が定着するまでには、多くの先人の苦勞がありました。そのなかで、100年近くもワイン生産を営むカタシモワインフード(株)が所蔵するぶどう酒醸造用具などを柏原市の有形文化財に指定しました。これを契機として、カタシモワインフード(株)所蔵の資料とともに、資料館で所蔵するぶどう、ぶどう酒関連の資料の公開を図り、市民の方々の協力も得ながら、柏原とぶどうについて考える企画展を計画しました。みなさんにもぶどうについて関心を深めていただくとともに、柏原市のまちづくりにも活かしていければと考えています。

## 柏原ぶどうの歴史

柏原でぶどう栽培が始められたのは、江戸時代の終わり、1850年前後と考えられます。宅地内に日陰樹を兼ねて栽培されていたようです。その後、明治11年(1878)に、道明寺村(現藤井寺市)沢田のぶどう試験園から甲州ぶどうの苗木を移植したことから本格的なぶどう栽培が始まりました。しかし、ぶどう栽培が定着するまでは苦難の連続でした。病虫害の予防と対策、新しい品種の選定と開発、剪定や施肥、温室など栽培方法の工夫、販路の拡大、台風被害の克服などを重ねながら、郷土の先人たちはぶどう栽培を定着させていきました。ぶどう栽培は昭和初期に全盛期を迎え、そのころの大阪のぶどう生産は全国一位で、柏原のぶどう生産はその30%以上を占めていたようです。

しかし、最近では住宅開発などによってぶどう園は減少を続けており、消費の低迷や価格の下落、後継者の不足などから、その生産は減少の一途をたどっています。大阪のぶどう生産高は全国で7~8位となり、その中で柏原市のぶどう生産高は、羽曳野市に次いで2位となっています。

ぶどう狩りやワインなどぶどうの多角的な利用も進んでいます。柏原のこれからを考えるうえで、ぶどうのあり方を考えることは欠かせないでしょう。ぶどうの歴史を学び、ぶどうについて、みなさんも考えてみませんか？

### —企画展記念イベントのご案内—

4月16日(土) 午後1時から

#### 「柏原のワイン、ここだけの話、ここだけの味」

講師 高井利洋氏 (カタシモワインフード(株)社長)

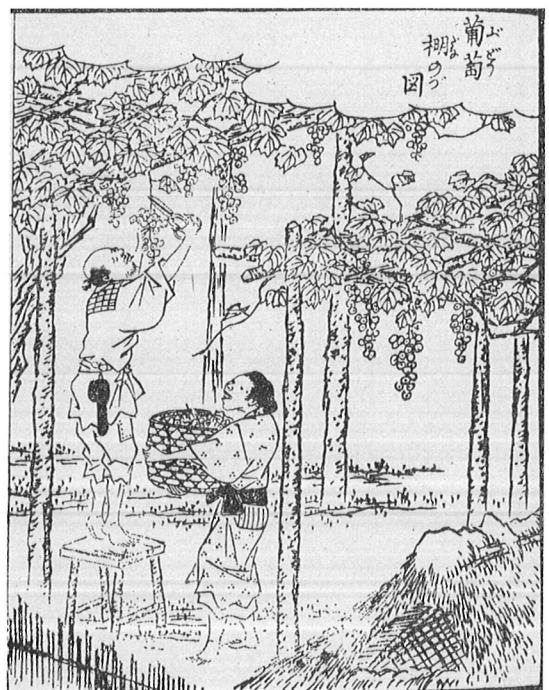
場所 歴史資料館研修室

参加費無料、申込不要

ぶどうとワインについて高井氏のお話を伺い、その後は柏原で造られているワインの紹介と試飲、展示品についての学芸員の解説もあります。

そのほか、何がとびだすかは当日のお楽しみ！

みなさんお誘い合わせのうえご来館ください！



大蔵永常『広益国産考』(安政6年、1859)に描かれた葡萄棚の図